



生駒市立鹿ノ台中学校

第4号

校長室だより

令和4年7月4日

見えない相手にこそ礼儀を尽くす

以前に見かけた次のような川柳^{せんりゅう}を紹介します。

「電話でもお辞儀をしていた母でした」

電話をしながら「こんにちは」とか「またね」などと言いながらお辞儀をしている姿が目に見えますね。皆さんはこんな光景を見てどう思いますか。電話なのだから・相手には見えないのだから、お辞儀は必要ないと思いますか？それとも、電話をしている相手にお辞儀をするなんて、とても丁寧な人だと思いませんか？

私はこの電話のお辞儀も、**心を込める**ことの一つのやり方ではないかと思っています。でも、電話で心を込めてお辞儀をしても、相手には伝わらないのではないかと思う人もいるでしょう。電話をする人がお辞儀をしても、相手には見えないのですから。

ある販売会社で、入社したばかりの社員に先輩の社員が「電話の前に鏡を置いて、電話がかかってきたら鏡を見て、笑顔をつくってから電話に出るように」と教えたそうです。電話の向こうの人にはこちらの笑顔は見えませんが、**必ずその雰囲気は伝わると**思ったのです。すると、その後商品の注文がとて増えたそうです。笑顔は相手の人には見えませんが、笑顔で応対しようとする雰囲気がちゃんと伝わっていたようです。その雰囲気がお客様に伝わり、商品をたくさん注文しようという気分にしたのかもしれない。

こんなふうになにかをするとき、相手の人を思いやってみたり、マスクの下で

あっても笑顔でやってみたりすると、意外にその気持ちはしっかりと伝わるのではないのでしょうか。「相手は見えていないから、どうせ伝わらない」と思わないで、何をするにも心のこもった対応を心がけたいですね。

防災を考える7月 ナラ・シェイクアウト

今年も7月のナラ・シェイクアウトに学校として参加します。

「Shake out」とは「地震をやっつけろ!」という意味で2008年にアメリカで考案された訓練です。一つしかない**自分の命を自分で守る【自助】**意識を高めるために「DROP!」(まず低く)「COVER!」(頭を守り)「HOLD ON!」(動かない)の3ステップで安全確保行動を練習します。

平成7年に起こった阪神・淡路大震災では、地震の直後、神戸の街は真っ暗で物音ひとつせず、一瞬時が止まったように街じゅうがショック状態だったそうです。その後は倒壊した家屋から助けを求める声が聞こえ、あちこちから火の手が上がり、指示する者は誰もいない中で、**地域の住民同士の助け合い【共助】**がとても有効だったと言われています。

自分の命の安全を確保したら次はどうするのか。けがをしてしまったり、逃げ遅れたりしたときにどうするのか。とっさの状況でもできるだけ落ち着くように心がけ、自分ができることを冷静に判断して行動しなければなりません。

「南海トラフ地震」は今後30年間で70%から80%の確率で発生すると予測されています。ぜひ、家族で地震が発生したときにどうするのか、しっかりと話し合ってみてください。普段から「生命を守る」という心構えができていれば、突然の災害に対してもあわてないで対応できることと思います。

保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

まもなく1学期が終わり、夏休みを迎えます。お子様にとって有意義な夏休みとなることを願っております。ご家族で過ごす時間も長くなります。自由に使える時間が多く持てるこの期間中に、何かに挑戦し、小さな目標であってもそれを達成した喜びを味わえる機会をご家庭で少しでも多く設定していただけますと幸いです。